

東雲中学校校長室通信  
文責 校長 渡邊 和彦  
平成二十九年五月二十九日発行第六号

CIO研修

私は校長であり、なおかつ東雲中のCIOです。なんだか少しかつこよい響きです。会社の社長さん最高経営責任者はCEOですから、ちよつと似てて全然意味が違います。CIOは学校で教育を情報化していくチーフという意味です。もつとわかりやすく言うと、授業にパソコンはもちろん、タブレットやインターネットを取り入れたり、職員室でも積極的にIT化を進め先生たちの仕事を効率的に経済的にして、ムダを省き先生と生徒が向き合う時間を増やす役割を担っている訳です。だから、毎年、その責任を果たすため研修を受けます。受ける度に、IOT(インターネットオブシングス)が急激に進化していることを実感します。私は日本のコンピュータ、インターネットなどのIT分野は世界でトップクラスだから、教育分野でもそうなのだろうと思っていたら、実は先進国では最低レベルなんだそうです。未だに、黒板とチョークと教科書...少しがつくりしました。そして目の覚める言葉を聞きました。大阪にある近畿大学附属高校の校長先生のお言葉だそうです。

「子どもたちは未来からの留学生」

深い、お言葉です。十年後二十年後の未来で、子どもたちが、困らないように、迷わないように、惨めな思いをしないように、私たちが先進的な取組を積極的に恐れずに取り組まなければいけません。「金がない、時間がない、人がいない、情報がない」言い訳ばかりしてはいられません。何もしなければ何も産まれません。留学生を手ぶらで帰すわけにはいきません。

絵本の話

テレビを見ていましたら、絵本が話題になっていま

して、ベストセラーの絵本が紹介されていまして、その中には私にも見覚えの、読み覚えの？本が何冊もありました。はらぺこあおむし、いないいないばあ、ぐりとぐら...で最近の話題の絵本のストーリーは結構すごいことになっていると、紹介されたストーリーはこんなんです。

「幸せに暮らしていた母羊と子羊。ある日オオカミがやってきて母羊を食べてしまいます。さてその後、隠れて生きて残った幼い子羊がとつた行動は？」



さて、皆さんなら、どんなストーリーを描きますか？

で、その話題の絵本では、子羊がオオカミの弟子になり強くなるための修業をし、オオカミのようなどう猛で強靱な羊となり、最後にオオカミを倒すのです。その時オオカミは「お前にやられてよかった。俺は喜んでいい。」とつぶやき羊は「僕の胸は晴れない。いつの間にかお前を好きになつていた。」と複雑な心境を見せると...

変わりましたね...絵本の世界。子どももの成長の程度に対してどうなんでしょうか？だけど、子どもだからこそ、深い話が必要なかも知れません。子どもたちは無限の可能性を秘めた未来からの留学生ですからね。

※出典 やなせたかしの絵本『チリンのすず』(フレーベル館 1978年)

友だちのことで悩んでいたあの頃の私

どうしても、上手に友だちと仲良くなれず、いらだちばかりがつり、さみしさに耐えられなくて、苦しい時が長く続きました。人に優しくすればいいのに、それができなかつた。小学校の時仲が良かったと信じていた友だちは、中学に入り、他の友だちとより密接につきあうようになっていく。そんな現実が悔しくて辛かつた。みじめだつた。次第に、人に対して攻撃的になつた。どうなつてもどう思われてもいいと自暴自棄になつた。ケンカになり、同級生を傷つけた。どう考えても自分のしたことが間違つていた。孤立し

た。部活動にも居づらくなつた。それでもまだわからなかつた。どうすれば人に好かれるのか...「誰かが困つてるときに、そつと手を貸してやればいいんだよ」と教えてくれる人はいたけれど、いつがその時なのかわからなかつたし、その時の私の手助けを必要にしている人など、いるようには見えなかつた。

その後、ぼつりぼつり...友人らしき者ができてきた。おとなしい者、退屈な者、私の親には歓迎されそうもない、変な者、危うそうな者。

すこしずつだけどわかつてきた。私の友だちの作り方は間違つていたようだ。友だちは誰のものでもない。束縛されるべきではない。自分から与えないで与えられることばかり望んでいた。間違いだつた。居心地が良くなければ友人関係とは呼べない...自分の話ばかりして、人の話など真剣に聞いてはなかつた。

今思い返すと中学校の時の自分が恥ずかしい。特にこの詩を読むと恥ずかしい。「相田みつを」さんの詩だ。

「ただいるだけで」 (相田みつを)

ただいるだけで

あなたがそこに ただいるだけで

その場の空気が あかるくなる

あなたがそこに ただいるだけで

みんなのところが やすらぐ

そんなあなたに わたしもなりたいたい

相田みつを『いちずに一本道 いちずに一ツ事』

この東雲中学校で働かせてもらえることが決まったとき、東雲中学校時代の同級生が、集まつてお祝いをしてくれました。遠く県北から仕事が終わつてそのまま駆けつけてくれた友だちがいた。私が傷つけた友だちだ。彼が...一番優しくかつた。心が安らいだ。生徒たちにとつて「そんなあなた」にならなければ!